



目次	説教	キリストの苦しみの欠けを満たす道	久保 義宣	1
	大信仰問答	CATS・愛 ²⁰		
		エッセイ「第14章 終わりの日」	藤井 和弘	2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(14)		後藤 憲正	3
	教会、この地とともに ⁵⁹	香里園教会		
		神の言に集められ57年の恵みを思う	児玉 直子	4
	SDGsについて考える ¹⁰	(目標7)		
		いま問われるエネルギーの質	井上 豊	5
	次世代へのメッセージ ¹⁴			
		「これまで一度も通ったことのない道であるが、 あなたたちの行くべき道は分かる」	栗田 英昭	6
	こいのにあ	違いを超えて一つになれる恵み	松谷 満	7
	堀田治郎先生 追悼		千葉 保	7
	大会諸委員一覧			8
	教会ニュース			8

キリストの苦しみの欠けを満たす道

今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。(24節)

(コロサイの信徒への手紙1章24～29節)

く ば よし のぶ
久 保 義 宣

今年も間もなく受難節（レント）の時を迎えようとしています（2月22日～4月8日）。私共は今日の多忙さの中でいつの間にかその時を無為に過ごしてしまうことが多くなっているのではないのでしょうか。主イエスの十字架の苦難が私共の救いのために不可欠なことをよく知っています。しかし今日、私共は苦しみを負うことをまっぴらごめんとばかりに快楽を追い求め、苦しみを負うことの意味を深く考えることができずに、多くの時を費やしてきてしまっています。

使徒パウロは一人の伝道者として「キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています」と記しています。教会と福音宣教のために担う伝道者の労苦を大胆にこのような言葉で言い表したのです。初代教会以来、キリストの教会の歴史は、教会がこの期間を特別に覚えたことが伝えられています。洗礼志願者の準備のために特別な時として用いたことなどです。

今の私共のように自分の聖書を各自が持つことができなかった時に、聖書を読むために音楽が用いられ、音の強弱、高低、大小、くりかえし等、色々な工夫をして、聖書の強調点を読み取るための努力がなされました（J.S.バッハの受難曲や、ヘンデルのメサイア等がよく知られています）。

今日ほど自分たちのまわりに、すぐれた翻訳が沢山あることは、今までになかったことでした（文語訳、口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳、岩波版等々）。これらを用いて、主イエスの苦難を伝える福音書の記事を読みかえてみることは益の多いことと思います。

更に、自分の部屋に入って、聖書を読むばかりでなく、パウロが言うように、私共には神様から与え

られた多くの課題があります。どんな高齢者にも、また小さな子どもたちにも可能な祈りの時間を、受難節であるがゆえに、5分でも10分でも、増し加えることはできないのでしょうか。

私は子どもの頃に耳にした言葉が今も思い出されます。「受難節克己献金」という献金です。今日ほとんど全く耳にしなくなった言葉ですが、自分の楽しみを慎しみ、ぜいたくを戒め、少しでも教会のため、伝道のために献げようとする趣旨だったと思います。もちろん、私共が少しばかり肉欲を制して、献げたところで、主の苦難を覚えることにはならないことも確かです。それならあなたは今年の受難節をどのように、特に覚えて、何をしようとするのでしょうか。

私共の信仰の営みは、ただ心の中に留めるばかりでは不十分、不確かだと思います。コロナ禍、ロシア・ウクライナ戦争の中で、私共の周囲でも貧富の格差は増大し、困窮を究めている者、冬の寒さの中、子ども食堂や炊出しの列に並ばなければならない者たちは、どこでも増し加わっています。私共は自分自身の身をもって、わずかなことであっても、キリストの苦難と救いを証しする何事かを担うことはできるのではないのでしょうか。

今日、キリストの福音の証し人として召された者にとって、その証しを立てることのできる機会が与えられていることを忘れてはなりません。今日の教会の伝道の不振の原因をどこか外に求めるのではなく、自分たちの信仰のありようが、あまりにも内面化、個人化しすぎている結果が大きな原因であることに気付くことが求められているのではないのでしょうか。

（東京中央伝道所牧師）